

一般社団法人日本粘土学会 2023 年度第 4 回常務委員会議事録

日 時：令和 5 年 8 月 19 日（土）13:00～14:25

会 場：(株) 国際文献社アカデミーセンター4 階会議室および WEB 会議室

出席者：常務委員(15 名)：川俣 純、日比野俊行、鈴木正哉、蛭名武雄、中戸晃之、伊藤健一、小口千明、亀島欣一、笹井 亮、佐久間博、地下まゆみ、手束聡子、森本和也、渡邊雄二郎、鈴木憲子

欠席者(1 名)：横山信吾

監事(2 名)：志々目正高、高木哲一

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 16 名の過半数 8 名

出席常務委員 15 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2023 年度事業報告(資料 1)

前回常務委員会からの変更点について、各担当委員より資料をもとに報告があった。

1. (2) 資料の最終行「2022 年の論文受付・・・」を「2023 年の論文受付・・・」に訂正した。

4. 前回より 2 件増えた。

9. (2) 前回より 2 件増えた。(3) 提示された(別資料)会費未納者に関係者がいたら声かけをして欲しいとのお願いがあった。

10. 「7 月 25 日」を「7 月 15 日」に訂正した。

上記以外は、変更なしとの報告があった。

2. 2023 年度収支決算報告及び監査報告(資料 2)

伊藤会計委員より資料をもとに説明があった。前回からは参考粘土試料の収入や経費の支出があったが大きな変更はない、また今年度全体では昨年度と同等の収支で落ち着いたとの報告があった。

高木監事より監査報告があり、監査結果に特に問題はないが、会員数が減少していることへの対策が必要であるとの意見が述べられた。

3. 2024 年度事業計画(資料 3)

前回常務委員会からの変更点について、各担当委員より資料をもとに報告があった。

2. (1) 蛭名実行委員長より順調に準備が進んでいるとの報告があった。(2) 中戸実行委員長より、9 月 1 週目を予定しているとの報告があった。

5. 佐久間委員より、資料訂正の依頼があり、2024 年 8 月の行を削除した。

10. 蛭名常務委員長より、前回の理事会での意見を反映させた予定であることが報告された。

上記以外は前回より変更点がなく、例年通りに進める予定であることが報告された。

4. 2024 年度収支予算(資料 4)

伊藤会計委員より資料をもとに説明があった(前回からの変更点は赤字で示された)。賛助会員が 3 社退会による減収、また Clay Science の購読増による増収が予算書に反映された。さらに、雑誌配布の分析結果から、発行を減数した予算案とした旨が報告された。

来年度は CMS-Asian Clay への拠出金があるので、赤字の予算となってしまうが調整せずに予算案とした。この件について、川俣会長から登録費収入で回収できるので「拠出金」ではなく「預託金」としてはどうかという意見があり、理事会では「預託金」に訂正して諮ることとした。

5. 2023 年度総会の日時、場所、議案及びその内容（資料 5）

蛭名常務委員長より総会で諮第 5 号議案について資料をもとに変更内容の説明があった。また、伊藤会計委員より、年度の解説がなされた。本件は総会決定事項であり、理事会での承認後、総会に諮ることとした。

6. 理事の削減について（資料 6）

蛭名常務委員長より資料をもとに説明があった。会員数が減少しているという現状に合わせて理事を 20 名とすること、また分野によって会員数が異なるので分野ごとに理事をおくことは現実的ではないので、廃止することが説明された。また 3 期連続で理事になれないという条項を削除し、合わせて役員候補者推薦委員会第 6 条 3 を改定することが説明された。

森本委員より、定款に 30 名以内とあるが変更の必要はないかという質問があった。蛭名常務委員長より、今回の変更は会員数減少による変更なので、増加したらまた増員する可能性がある。その都度定款を改定するのは手間であるのと、変更内容が「30 名以内」という定款に矛盾しないので定款の改訂は必要ないとの見解が示された。

7. 2023 年度総会の準備、進行等（資料 7）

蛭名常務委員長より、資料をもとに説明があった。例年通りの進行となるが、今回は事務局が現地に来ないので、出席者の確認は手束庶務委員、地下庶務委員で行うこととした。

8. 2023 年度表彰式の進行（資料 8）

蛭名常務委員長より例年通りに行うとの説明があった。

9. 第 66 回粘土科学討論会について（資料 9、10）

蛭名実行委員長より資料をもとに説明があった。今回はハイブリッド形式で実施するが、リモートの準備など LOC の負担が大きい。またフルリモートで参加する人も少ないので、次回からは検討が必要であるとの見解が示された。

10. 今後の国際会議の日本開催について（資料 11）

川俣会長から NCG-AIPEA officers meeting の報告があった。EUROCLAY は今回、ICC は 2025 年の 18-ICC（ダブリン）が最後となり、「CLAY」という国際会議に統一され第 1 回 CLAY 2027 がスペインのマドリッドで開催がほぼ決定している。その後 2 年毎に CLAY は開催され、ヨーロッパ及び地中海沿岸（ECGA zone）とそれ以外の地域（アジア-パシフィック、アメリカ、アフリカなど）で交互に開催する。2029 年から 4 年毎に ECGA zone 外での開催となるが、日本での開催を求める声が多かった。日本では 2028 年に Asian Clay を開催する予定であり、CLAY 2029 をホストするのは現実的に無理があるので、CLAY 2033 に立候補を考えている。また、2028 年の Asian Clay は佐藤努先生を実行委員長に考えているとのことであった。

11. その他

蛭名常務委員長より、70周年（2026年）、Asian Clay（2028年）と大きなイベントが続くので、学術振興基金の使い方も含めて、来年度の理事会から検討を進める必要があることが示された。70周年記念行事については、財政健全化の観点から、討論会での記念シンポジウムなどの開催も検討してはどうかという意見が出された。また、山崎先生をオブザーバーとして呼び出すことが決まった。

以上、審議の上承認された。

報告事項

1. 研究グループの活動報告（資料12）

蛭名常務委員長より、資料をもとに報告があった。

2. その他

蛭名実行委員長から、関係者にはこれから連絡をするが今回の粘土科学討論会は本格的なリモート会議であるため、発表者にはZoomを利用する。また、リモート参加者はチャットで質問するので、座長は留意してほしいとのことであった。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和5年8月22日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 蛭名武雄 ⑩

監事 志々目正高 ⑩

監事 高木哲一 ⑩